



執行役員

北村 恵一

Keiichi Kitamura

2013年の技術成果

2013年は、当社グループにとって大きな転換の年となりました。

東京証券取引所市場第一部に上場し、本社は最新機能を備えたオフィスビルに移転しました。また、富士山工場にF2棟を建設してサーボアンプやステッピングドライバの生産能力を向上させ、塩田工場をパワーコンディショナの専門工場としてリニューアルしました。さらに、SANYODENKI PHILIPPINES, INC.の生産能力増強のため、第3工場の建設を開始し、2014年春には竣工の予定です。

◆グローバル化とローカル化

当社は今、「グローバル化」をすすめて、世界のトップブランドとなることを目指しています。そのことが、企業理念にある「すべての人々の幸せを目指し、人々とともに夢を実現する」ことになるからです。当社の強みは、お客さま個々の要望に、きめ細かく応える製品とサービスを提供できることです。当社が、その強みを、日本国内と同じように世界中の人々に提供できて、はじめて、本当の意味でグローバル化ができたと言えます。

たとえば、中国の機械メーカーが、当社がカスタマイズしたモータとアンプを使って思いどおりの機械を作り、市場の高い評価を得て、たくさん売れていることであり、ブラジルの通信会社が当社の冷却ファンとUPSを使って広く社会の役に立っていることです。そうなるためには、当社が、その地域で、地域のニーズに合った独自の製品開発、サンプルの迅速な提供、きめ細やかなカスタマイズや技術支援、迅速なメンテナンスや修理をすることです。つまり、ローカル化です。そのために、私たちは世界中に「ミニ山洋電気」を作る活動をしています。世界各地に日本と同様の設計開発部門、調達部門、生産工場、修理・サービスセンターを備える活動です。

グローバル化は、私たち一人ひとりにも求められています。「まず、相手の多様性を理解し、受け入れ、そしてこちらを理解してもらい、終には率直に意見交換ができる」能力を身に着けることです。この能力を身に着けることは、人生においても意義あることです。世代間のギャップ、女性と男性、ルーキーとベテラン、部下と上司、異なる国籍、異なる文化、異なる

価値観など、あらゆる場面でギャップを乗り越え、認め合うことができる能力となり、人として大きく成長し、より大きな幸せを得ることができるからです。

◆人の安全

東日本大震災以降、日本では「安全」が大きなテーマになりました。災害時・非常用の発電機への需要が高まり、原子力発電に代わるクリーンで安全な太陽光発電の事業が拡大しています。その一方で、老朽化したトンネルやレールを放置した事故が相次ぎ、橋梁や高速道路の老朽化などが社会問題となっています。

私たちは、これらを教訓とするまでもなく、製品の安全性を高めるとともに、製品の品質を長く維持するための、保守・メンテナンスの必要性をユーザーへ積極的に伝えることも、重要な仕事であると認識しています。また、将来の保守・メンテナンスを容易にできることを想定した製品の開発にも取り組み、「使い易さ」と「信頼性」を向上させています。

当社の3つの開発テーマのひとつである「人の健康と安全を守るための技術」の分野において、今後、人々は、さらに、私たちが大きな役割を果たすことを期待するでしょう。

◆2013年の技術成果

2013年の技術成果は、当社が掲げる「企業理念」と「3つの技術テーマ」のもとに生み出された成果です。この中には、基本性能を向上させながら、省エネも向上させたもの、製品の寿命を延ばしたもの、使い易さ・メンテナンスのし易さを向上させたもの、様々な電源事情に適応可能としたものなどがあります。

それらは、開発に関わった社員の、世界中の人々の期待に応えようとする真摯な姿勢と努力、良い仕事をしようとする誠実さと使命感の結果であり、彼らをとりまく人々の協力と励ましに支えられた成果でもあります。